

令和元年度 決算のお知らせ

皆さんは、自分が納めた税金がどのように活用されているのか気になりませんか？令和元年度に、市にどのくらいのお金が入ってきて、そのお金を何に使ったのかを一緒に見ていきましょう。

(金額は四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります)

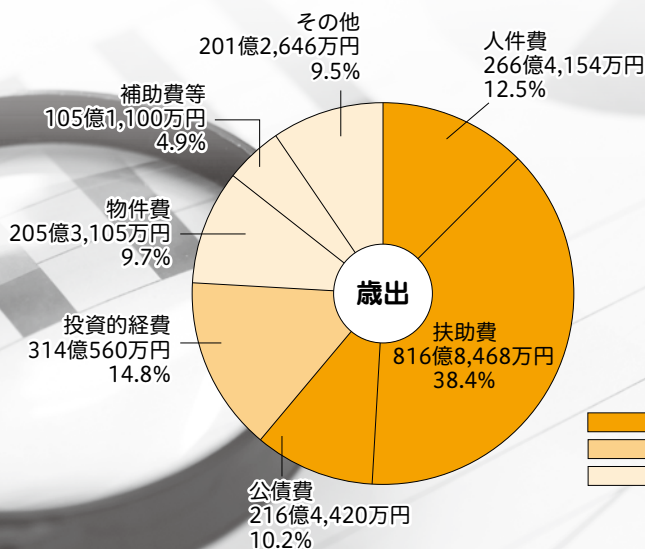
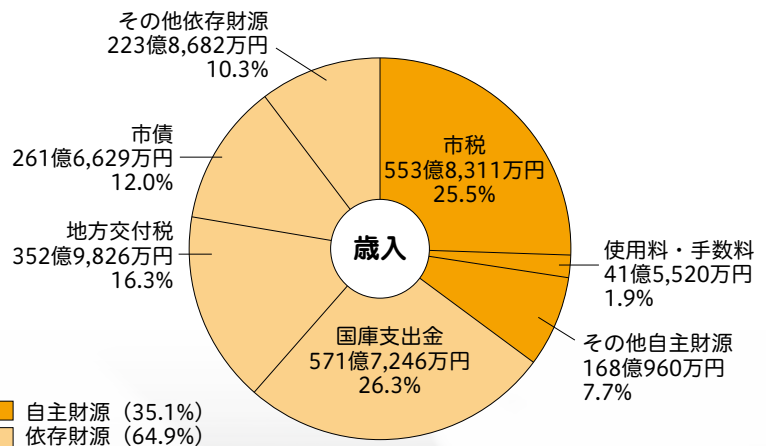
問い合わせ 財政課 ☎ 829-1126

一般会計

市が行う仕事の中心になる会計です。歳入では、学校給食費を市が一元的に管理することに伴う学校給食費負担金などにより諸収入が増加しました。歳出では、小・中学校の空調設備整備などにより投資的経費が増加しました。令和元年度の一般会計の収支は、32億36万円の黒字となっています。

歳入 2,173億7,174万円

一年間の全ての収入。市税収入などの市が独自に確保できる自主財源が少なく(歳入に占める割合は約35%)、国から交付される国庫支出金、地方交付税の割合が高くなっています。



歳出 2,125億4,452万円

一年間の全ての支出。扶助費(原爆被爆者や子ども、高齢者、障害者福祉などの経費)の割合が高くなっています。

一般会計の歳入歳出を市民一人あたりで考えると

※令和2年3月末、人口413,845人で計算

歳入は 約 **53** 万円

歳出は 約 **51** 万円

基金（貯金）・市債（借金）などの状況

基金

市民一人当たりの貯金 約 **11** 万円

基金は、財政運営や特定の目的のための資金・財産です。令和元年度末の残高は約464億円です。

一時借入金

一会計年度内での収入と支出の一時的な不均衡を解消するための一時的な借入金です。

（令和元年度の最高借入額）50億2,301万円

市の財産

種別	金額
土地	2,450億3,235万円
建物	2,752億4,763万円
工作物	882億4,250万円
その他	245億5,645万円
合計	6,330億7,893万円

財政状況

財政状況を表す健全化判断比率は国が定める基準を全てクリアしています。実質赤字比率および連結実質赤字比率は赤字がなく、残り2つの指標も早期健全化基準未満となっています。

市債

市民一人当たりの実質的な借金 約 **28** 万円

市債は、学校や道路等の建設や災害復旧工事などのための借入金のことです。将来を含めた世代間で公平に負担しあう意味合いがあります。令和元年度末の残高は約2,550億円（市民一人当たり約62万円）ですが、そのうち国からの支援約1,385億円を除いた実質的な市債残高は約1,166億円（市民一人当たり約28万円）です。

未収金

税金や介護保険料などは、ほとんどのかたが適切に納入していますが、一部の未納があります。令和元年度は、約5,600件（約6.9億円）の差押えなどを行いました。

収入種別	金額
市税	13億4,261万円
国民健康保険税	20億8,854万円
市営住宅家賃	7,928万円
介護保険料	1億7,257万円
後期高齢者医療保険料	3,656万円
保育料	7,232万円
その他	8億9,942万円
合計	46億9,130万円 （前年度比 ▲2.4%）

（4月～9月）の財政状況

※すべて令和2年9月末現在の数字

◆企業会計

◆特別会計（国民健康保険事業、介護保険事業など12会計）

予算額	収入済額	支出済額
1,132億9,400万円	453億400万円	437億1,900万円

◆一時借入金の現在高

38億2,800万円

◆市の財産

6,330億7,893万円

◆市債

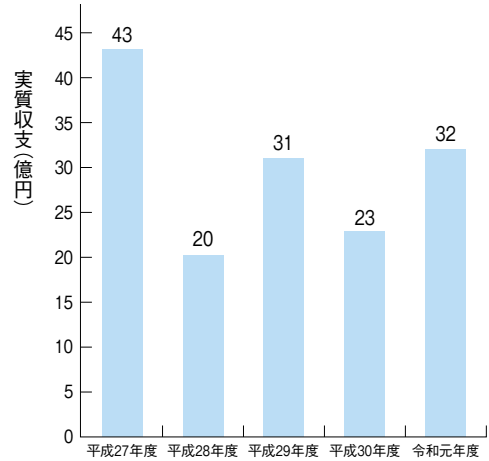
3,650億5,000万円（一般・特別・企業会計の合計）

会計	区分	予算額	支出済額
水道事業	収益的	収入	118億7,100万円
		支出	105億4,000万円
	資本的	収入	8億7,100万円
		支出	72億5,400万円
下水道事業	収益的	収入	133億8,800万円
		支出	119億200万円
	資本的	収入	84億9,100万円
		支出	128億2,000万円

一般会計の実質収支

実質収支は黒字の状態を維持しています。

実質収支とは、歳入と歳出の差額から、翌年度に繰り越すべき財源を引いた収支のことをいいます。収支の差額は、基金の積み立てなど今後の財政運営に役立れます。



未来への投資である新市庁舎建設事業や交流拠点施設整備事業などの大型事業の実施による投資的経費の増加や、新型コロナウイルス感染症・人口減少の影響が考えられますが、基金などを活用しながら自主財源の確保や事業の見直しを行い、健全な財政運営に努めていきます。

特別・企業会計の決算状況

企業会計

それぞれの事業の収益(使用料など)で支出をまかなう独立採算が原則の会計です。

会計	区分	決算額
水道事業	収益的	収入 116億 1,342万円
		支出 96億 3,879万円
	資本的	収入 10億 9,679万円
		支出 66億 8,233万円
下水道事業	収益的	収入 132億 184万円
		支出 113億 6,310万円
	資本的	収入 69億 3,568万円
		支出 114億 3,316万円

収益的収入と支出

企業の経営活動により発生する収益と、それに対応する費用

資本的収入と支出

企業の将来の経営活動に備えて行う建設改良費や企業債償還金などの支出とその財源となる収入

特別会計

一般会計のほかに、特定の収入(保険料や使用料など)で、その事業の支出をまかなう会計です。

会計	収入済額	支出済額
観光施設事業	3億 797万円	3億 797万円
国民健康保険事業	549億 2,630万円	547億 188万円
土地取得	11億 3,894万円	9億 6,627万円
中央卸売市場事業	2億 7,866万円	2億 7,866万円
駐車場事業	3億 5,995万円	3億 5,993万円
財産区	3,021万円	3,021万円
母子父子寡婦福祉資金貸付事業	1億 8,618万円	3,182万円
介護保険事業	474億 3,992万円	463億 4,615万円
生活排水事業	5億 2,139万円	5億 2,139万円
診療所事業	3億 3,795万円	3億 3,795万円
後期高齢者医療事業	56億 9,479万円	56億 3,350万円
長崎市立病院機構病院事業債管理	8億 5,949万円	8億 5,949万円
合計	1,120億 8,176万円	1,103億 7,523万円
前年度比	▲7.6%	▲7.1%

令和2年度の上半期

◆一般会計

	費目	予算額	収入済額	収入率
歳入	市税	546億 7,900万円	293億 5,000万円	53.7%
	地方交付税	341億 9,600万円	247億 4,500万円	72.4%
	国庫支出金	1,109億 1,800万円	652億 6,600万円	58.8%
	諸収入	88億 2,600万円	40億 2,200万円	45.6%
	市債	361億 8,200万円	0円	0.0%
	その他	466億 3,000万円	157億 2,700万円	33.7%
	合計	2,914億 3,100万円	1,391億 1,000万円	47.7%

	費目	予算額	支出済額	執行率
歳出	総務費	712億 8,600万円	527億 4,100万円	74.0%
	民生費	1,078億 4,600万円	434億 9,900万円	40.3%
	公債費	226億 9,500万円	113億 800万円	49.8%
	土木費	288億 800万円	71億 8,500万円	24.9%
	教育費	180億 7,100万円	58億 9,300万円	32.6%
	衛生費	130億 3,700万円	48億 3,600万円	37.1%
	その他	296億 8,700万円	81億 5,400万円	27.5%
	合計	2,914億 3,100万円	1,336億 1,700万円	45.8%

令和元年度の主な取り組み

市がめざす将来の都市像「個性輝く世界都市」「希望あふれる人間都市」の実現に向けてテーマを掲げ、取り組みました。ここでは主なものを紹介します。

もっと便利に魅力的に

■狭い道などを車道に 875万4千円

車が入ることができない細い市道を車が通れるように、新たに5路線を「車みち」として整備しました。

■稲佐山山頂展望台へ スロープカーを整備 7億2,759万3千円

稲佐山山頂展望台を訪れる観光客などの増加に対応するため、世界的な工業デザイナーである奥山清行氏がデザインした稲佐山スロープカーが1月31日に運行開始しました。(①)

■恐竜博物館の建設 4億9,697万4千円

他では見られない長崎市産の恐竜をメインテーマとし、「はらかな過去の長崎」を探求することができる恐竜博物館の建築設計、展示設計を行いました。来年10月の開館を目指して着々と準備を進めています。(②)

子どもたちの未来

■小・中学校にエアコンを設置 27億946万4千円

市立小中学校全ての普通教室や理科室、音楽室などの一部の特別教室へ空調を設置し、供用を開始しています。

■学校給食センターの建設 1,923万2千円

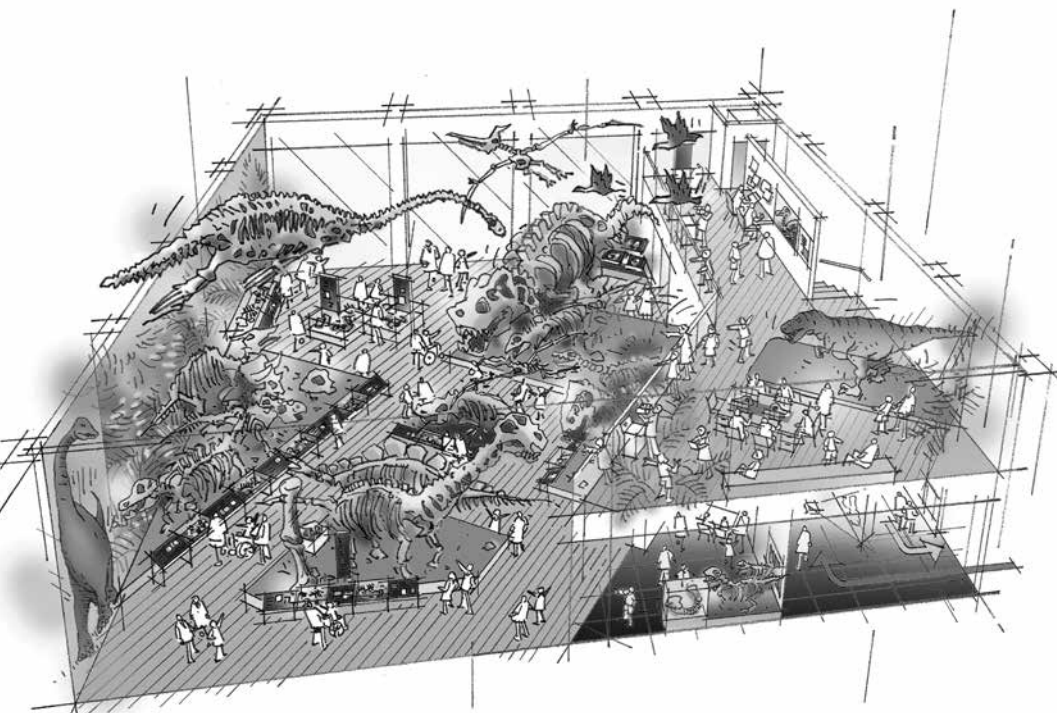
より安全で安心な学校給食を提供するため、学校給食センターを整備します。1カ所目となる(仮称)長崎市三重学校給食センターの建設や運営などを一体的に民間事業者へ委ねる契約を締結し、令和4年1月からの供用開始に向けて整備を進めています。

■放課後児童クラブの施設整備を支援 8,692万2千円

放課後児童クラブを運営する法人へ施設整備の補助金を交付し、2校区の施設が新しく整備されました。

②来年10月開館予定の長崎市恐竜博物館

①稲佐山スロープカー



環境との調和

■地域でエネルギーを作り出すための事業体設立 1,750万円

再生可能エネルギーの地産地消によるCO2削減と新たな脱炭素事業を創出するため、地域エネルギー事業体「株式会社ながさきサステナエナジー」を設立し、今年度からの電力供給開始を予定しています。

地域と人を元気に

■地域コミュニティの推進 2,931万3千円

自治会をはじめ地域の団体などが連携してまちづくりに取り組む「地域コミュニティ連絡協議会」の設立を支援し、今年11月1日現在、18地区で連絡協議会が活動しています。

■地域に密着したもよおし 1,722万5千円

地域の活性化・一体感の醸成をキーワードに、地域行事の開催を支援する補助金交付や、地域のつながりづくりのための新しいイベントの開催など、さまざまな取り組みを行いました。

障害者福祉の充実

■手話の普及・啓発 53万円

中学1年生を対象に22校へ手話通訳者とうろろ者を派遣し、生徒が手話に触れる機会の場をつくり、手話に対する理解が進みました。(5)

長崎ならではの交流

■ラグビー・スコットランド 代表との交流 3,160万2千円

大会組織委員会が求める施設整備を実施し、スコットランド代表チームのキャンプの受け入れを円滑に行うことができました。また、公開練習やラグビー教室、学校訪問などを通じて、市民との交流を深めることができました。(3)

移住・定住の促進

■移住相談窓口を開設 2,123万円

移住相談窓口「ながさき移住ウェルカムプラザ」を開設し、移住希望者からの「住まい」「仕事」「子育て」などの相談に対応するなどきめ細やかな支援を行ったことで、目標200人を上回る292人のかたが移住してきました。(4)

安全・安心な暮らし

■防災行政無線のデジタル化 20億1,628万3千円

送受信設備や屋外スピーカー設備などを更新しました。また、屋内でも無線放送と同じ内容を聞くことができる戸別受信機については、無償貸与の対象拡大と有償譲渡の制度創設を行い、機器を配布しました。

③ラグビースコットランド代表チームとの交流会



④移住相談の様子(長崎駅前)

⑤中学校での手話講座の様子

